

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立兵庫小学校

4月から5月にかけて、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

調査期日 令和8年4月23日（木）

（注）質問調査については、オンライン方式（CBT方式）のため、調査日を分散して実施

調査の対象学年 小学校第6学年

調査の内容

（1）教科に関する調査

国語、算数

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。

② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。

調査問題では、上記①と②を一体的に問うている。

（2）質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

児童生徒に対する質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

教科に関する調査結果及び考察について

・全国学力・学習状況調査は、小学6年生及び中学3年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。

・また、調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」です。
したがって、調査結果を見る際には、この点をご理解いただいた上で、ご覧ください。

質問
調査

佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

《質問領域：主体的・対話的で深い学び》

（注）数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（％）

質問番号	質問事項	本校（％）	全国（％）
39	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	80.3	77.6
42	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	84.5	85.7
46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にしてお互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	88.7	91.4

本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

◎課題の解決に向けて、自ら考え主体的に取り組もうとする姿勢が見られます。

◎自分に合った学習方法を工夫し、学び方を考える力が育っています。

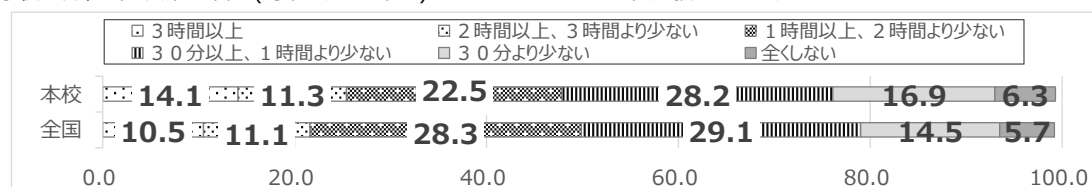
●友達との話し合いを通して、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりする力に課題が見られます。

●友達と協力しながら課題を解決する力をさらに高めていく必要があります。

《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

22	分からないことやわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	84.5	79.4
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	81.7	78.4

23 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）1日当たりどれくらいの時間勉強していますか



《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

8	自分には、よいところがあると思う	87.0	85.6
10	将来の夢や目標を持っている	83.8	81.8
15	学校に行くのは楽しいと思う	82.4	85.7
21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	92.2	92.5

本校の調査結果 ※◎（強み）、●課題

◎多くの児童が自分のよさを認め、前向きな気持ちで学校生活を送っています。

◎「人の役に立ちたい」という思いが強く、思いやりや社会に貢献しようという意識が育っています。

●将来の夢や目標をもち、その実現に向けて日々の学習や生活とのつながりを意識できるような支援が必要です。

●地域や社会との関わりを深める体験活動を充実させ、自分も社会の一員として地域や社会に参画しようとする意識を高めていくことが求められます。

《質問領域：向社会性》

14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	95.8	95.8
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	81.7	80.1

調査結果を受けて

【学校では】

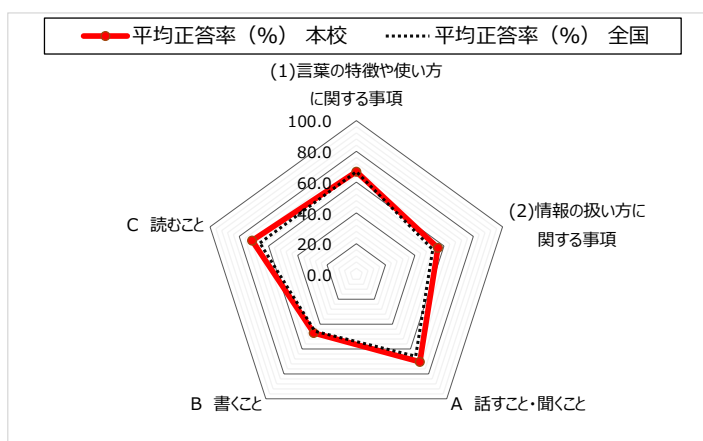
- 「学校に行くのは楽しい」と子ども達が思えるように、主体的・対話的で深い学びの視点で授業改善を行います。
- 友達との話し合い活動をより深めるため、話し合いの視点や型を示しながら、自分の考えを広げたり深めたりする学習を充実させます。
- グループ活動やペア学習を積極的に取り入れ、友達と協力しながら課題を解決する力を育てます。

【ご家庭では】

- 子どもの話に耳を傾け、「どうしたの？」「あなたはどうしたい？」と考えを引き出す対話を大切にしてください。
- 結果だけでなく挑戦する過程にも目を向け、「何か手伝えることはある？」と伴走の姿勢で見守ってください。
- 結果だけでなく、考えたことや挑戦したことにも目を向け、認め励ます声掛けをお願いします。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容		平均正答率 (%)	
		本校	全国
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	66.8	66.8
	(2)情報の扱い方に 関する事項	55.8	52.3
思考力、 判断力、 表現力 等	A 話すこと・聞くこと	70.3	65.8
	B 書くこと	47.1	45.7
	C 読むこと	71.2	65.9



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	65.8	61.9
短答式	59.5	62.6
記述式	57.7	54.9

結果 ※◎ (強み)、●課題

- ◎ 文章を読んで自分の考えをまとめる力が身についています。
- ◎ 資料を活用して、自分の考えを表現する力が身についています。
- 漢字を文の中で正しく使うことに課題が見られます。
- 引用して自分の考えを書くことに苦手意識があるようです。

《正答率の高い問題》【強み】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
1 二 (2)	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる	70.8	63.2
3 三 (2)	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	82.5	76.4

《正答率の低い問題》【課題】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2 三イ	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	35.0	45.2
2 四	引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる	32.8	33.5

調査結果を受けて

【学校では】

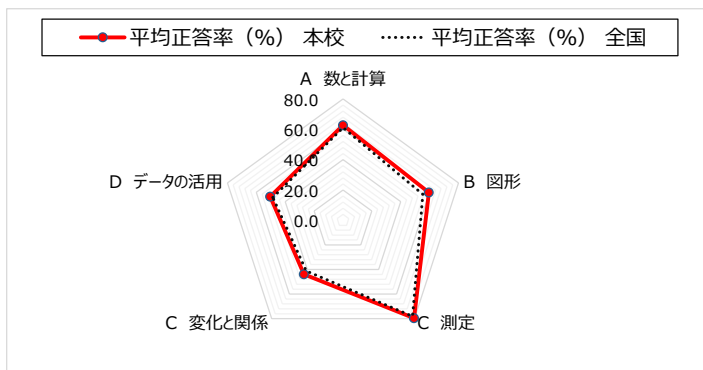
- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子ども同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながらかく機会を増やしたり、インタビューや案内したりするなど、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていましよう。繰り返し音読することで、文の構成、文節ごとの区切り、言葉の意味を理解することができ、要点や意図を捉えることにもつながります。
- 読書を大切にしていましよう。文学・科学・歴史・地理・芸術・本を読み、いろいろな表現や用語にふれることで、「読む」を楽しめるようになります。市立図書館や本屋に定期的に行くことも、お子様の読書週間をつける上でおすすめです。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)	
	本校	全国
A 数と計算	62.7	61.1
B 図形	59.5	55.3
C 測定	79.6	78.1
C 変化と関係	43.8	41.1
D データの活用	50.4	48.6



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	55.3	56.0
短答式	62.3	59.7
記述式	53.5	48.5

結果 ※◎ (強み)、●課題

- ◎すべての分野で全国平均を上回っており、全体的に基礎学力が定着しています。
◎考えを言葉や数を使って説明する力が身についています。

- 数を四捨五入して概数で表すことに課題が見られます。
●数直線上の目盛りを読み取る力に課題が見られます。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
1 (1)	立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる	82.5	72.7
3 (3)	異分母の分数の大小を判断し、その理由を数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	51.1	44.0

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2 (1)	数を四捨五入して、概数で表すことができるかどうかをみる	64.2	66.5
3 (4)	単位分数の個数に着目し、数直線上の1を表す目盛りを捉えることができるかどうかをみる	63.5	68.1

調査結果を受けて

【学校では】

- 図形分野の強みをさらに伸ばすとともに、数直線や概数など「数の感覚」を育てる学習を充実させます。
○選択式問題だけでなく、自分の考えを書く・説明する活動をさらに取り入れ、思考力・表現力を高めます。

【ご家庭では】

- お子様と一緒に、身の回りの数量を「およそ～」と見積もる習慣をつけてみてください。
(例：買い物の金額、時間の見積もりなど)
○お子様が考えたことを「どうしてそう思ったの？」と聞いてあげることで、説明する力の向上につながります。
○分からないことがあったときは、すぐに答えを教えるのではなく、一緒に考えたり調べたりする時間を大切にしてください。